

CHUOH TRY+ANGLE

知っ得通信

2019年1月21日発行

編集・発行：中央教育研究所(株) 〒730-0013 広島市中区八丁堀15-6

<http://www.chuoh-kyouiku.co.jp>



中土井鉄信の「地域一番の繁盛塾になるための最強法則」

vol.83

<授業とはどういうことか>

読者の皆様。遅くなりましたが、明けましておめでとうございます。本年もよろしく申し上げます。

さて、この冬期講習の集客はどうだったでしょうか。集客に苦戦した塾が多かったのではないのでしょうか。2019年も厳しい状況が続くと思いますが、明るく元気よく校舎運営をしていきましょう！

それでは、今回は初心に戻って、授業について考えたいと思います。その前に、まずは、私の基本的なスタンスを書いておきます。

私は、子どもとのコミュニケーションを通じて、子どものセルフ・エスティームを高めることが非常に重要だと考えています。セルフ・エスティームとは、自分が重要な他人から重要だと思われていると実感することです。つまり、親や先生や親友に自分が重要な存在だと思われていると自分で実感すること。そして、その実感が自信（自分の可能性を信じること）を強化し、新しいこと、やらなければならないことにやる気を持って取り組むようになる、そのような心のエネルギーのことをセルフ・エスティームと定義しています。ですから、私のコンサルは、この子どものセルフ・エスティームを高める活動を学習塾としてどう行っていくか、を指導していくこととなります。在籍生のセルフ・エスティームを高めることで、一般生を集め、保護者の信頼関係を構築していくこととなります。

それでは、10年前に行った学園改革の一部である授業改革を例にして、授業とはどういうことかを考えていきます。

地方都市の私立高校の話です。その学校は、ほとんどのクラスで「睡眠学習」をしていました。1限目の授業から生徒はみんな寝ているのです。初めて授業を見学した時は、愕然としたことを覚えています。

どの先生の授業も、生徒と向き合っていないのです。低学力層の生徒（入学してくる生徒の偏差値がほとんど40以下）に対して、自分の授業における固定観念を押し付け、聞かないで寝ている生徒が悪いのだと言わんばかりに無視をしながら、授業をしているのです。

しかし、ほとんどの生徒が寝ているのです。生徒が悪いわけではありません。第三者から見れば（部外者だった私から見れば）、先生が生徒を寝かせているように見えるのです。

ということで、学園改革のスタートは、授業改革をすることに決めたのです。夏休みを利用して講習を企画し、私が授業の見本を見せることから始めました。

この私立高校では、夏休みに講習など一切やったことがありませんでした。まず、講習の枠組みを決め、高校1年から3年までの時間割を作り、私の授業を全教師が1回は見学できるように組みました。

私の授業は、高校1年生の2クラスの国語です。高校1年生の夏に、センター試験の国語の評論を100分間休みなしに読解するという授業です。この設定が非常に難しい設定になって

いるのが、皆さんもお分かりになると思います。なにせ、偏差値が40以下の生徒ですから。教師全員が、すぐに寝るだろうと思っていただろうです。それも朝一の時間割で、5日連続で。

この授業のミッションは、この5日間で、評論の問題を解けるようにする。それも誰一人寝ることなく、です。こんな難しい設定にしたのは、そうでもしない限り、全教師が自分の授業（＝生徒が寝てしまう授業）に気づかないと思ったからです。自分の授業に対する工夫が足りないんだと、気づいてほしかったからです。

例えば、文章の中に出てきた「絶対的」という言葉の説明では、生徒を前に引っ張り出して、身長を比べて、比べる相手によって、背の高い低いが変わるのを「相対的」、変わらないのを「絶対的」、そんな風に教えていったのです。生徒が授業中に考えるか、体を使うか、意見を表明するか、そのような時間を作りながら、問題を解かせて行きました。発問を常時しながら、問題を読解していくわけです。承認活動を徹底して行いながら。

そして、5日間が経ちました。2クラスとも、最終日には、自力で、問一の漢字を除いて、ほとんどの生徒が全問正解になりました。漢字は中学時代にほとんどの生徒がまじめにやっていないのでできませんでした。

これで、彼らは国語の授業が少し好きになったと言ってくれました（少しかよ！と思いましたが、贅沢は言えません）。発問をすれば、彼らは答えます。その答えが合っていれば、素直に承認を、間違っていれば、アドバイスを与え、正解に近づけ、生徒の理解を助け、「もう一歩でわかるころまで来たね！」と励ます。このようなコミュニケーションで生徒を勇気づけました。この過程で、この生徒たちは、今まで寝ていた授業を寝なくてよいものだとし理解できたようです。

授業とは、その科目を好きにさせる作業です。そのためにどんな工夫が出来るのか。この1年、ぜひ、授業の質を意識してみてください。集団指導の授業も個別指導の授業も、目的は同じ、「その教科を好きにさせること」です。授業が終わった時に、必ず今の授業で生徒はその科目が少しは好きになったのだろうか？そんな自問を毎回のようしてみてください。

【編集後記】

【「生徒のやる気を引き出す教師の授業スキル」好評配信中！】

学校・塾再建のカリスマ中土井鉄信完全監修のストーリーミング動画がついに登場！

プレゼン力+共感力を磨いて、生徒から「この先生から教わりたい！」と言われる教師になるための技を中土井が徹底伝授！あなたの授業と生徒対応スキルで、地域一番の教室にしてください！

▽くわしくはこちらから▽

<http://management-brain.com/lp2>

▽お問合せはコチラ▽

TEL 045-651-6922 Mail : mailadm@management-brain.co.jp

合資会社マネジメント・ブレイン・アソシエイツ
教育コンサルタント 中土井鉄信

数字でみる学習塾経営・業界のトレンド vol.47

受験シーズンが始まりました。

わたしにも経験がありますが、このシーズンに入ると目の前の細かな出来事への対応に忙殺されて、大局を眺めることができなくなるものです。

そこで今回は、とにもかくにも視野を広げることを目的にして、いくつかの分野での世界における日本の地位を見てみることにしましょう。

◆名目GDP(米ドル換算)

1位	アメリカ	(24.3%)
2位	中国	(15.0%)
3位	日本	(6.1%)
4位	ドイツ	(4.6%)
5位	イギリス	(3.3%)

超大国だの貧乏国などという言葉がよく行き交いますが、この言葉はたいていGDPの大小を基準にしています。GDPは国内総生産 Gross Domestic Product の略語で、「国内の生産活動による商品・サービスの産出額から原材料などの中間投入額を控除した付加価値の総額」というのが定義です。上記はIMFが昨年10月に発表した2017年のGDP。国名の横のカッコ内は全世界のGDP総額に占めるその国のシェアを示しています。

ご覧の通り日本は世界第3位。立派なものでしょう。とはいえ、平成初頭の1990年のランクは世界第2位で、シェアは13.7%でした(国連統計)。「日本は落ちぶれてしまった、教育改革を進めてなんとかしないと」と焦るオエラガタたちの気持ちが分からないでもありませんね。

◆国民1人当たりの名目GDP(米ドル換算)

1位	ルクセンブルク	(\$105,863)
2位	スイス	(\$80,637)
3位	マカオ	(\$77,111)
4位	ノルウェー	(\$75,389)
5位	アイスランド	(\$70,248)

こちらは17年の国民1人当たりのGDP。国のGDPを人口で割った数値で、同じIMFの資料からとったものです。GDPが国の豊かさであるとする、こちらは国民の豊かさと考えてよいでしょう。

日本は38,448ドルで世界25位。国のGDPのトップ10を順に見ていくと、アメリカが8位、中国が74位、日本が25位、ドイツが19位、イギリスが24位、インドが143位、フランスが23位、ブラジルが69位、イタリアが28位、カナダが18位。国の豊かさや国民の豊かさとはリンクしていません。人口が減少していく日本がこの先、なにを目指して進んでいけばよいのか、なんとなく見えてくるのではないのでしょうか。ついでに記しておくとお隣の韓国は29位、台湾は36位、ロシアは64位です。

◆幸福度

1位	フィンランド
2位	ノルウェー
3位	デンマーク
4位	アイスランド
5位	スイス

国連が12年から世界の幸福度のランキング World Happiness Report を発表しているのをご存じでしょうか。「所得」「健康と寿命」「社会支援」「自由」「信頼」「寛容さ」などをもとに数値化したもので、上記は昨年3月に発表されたその最新版です。

ご覧のようにトップ5はスイスを除いてすべて北欧の国々。6位～10位はオランダ、カナダ、ニュージーランド、スウェーデン、オーストラリア。G7などのいわゆる先進国はカナダ以外には含まれていません。

日本の順位はというと156か国中の54位。泣きたくなりますね。前項と同様にGDPのトップ10を順に見ていくと、アメリカ18位、中国86位、日本54位、ドイツ15位、イギリス19位、インド133位、フランス23位、ブラジル28位、イタリア47位、カナダ7位。お隣のロシアは59位、韓国は57位、台湾は日本よりもずっと上位の26位でした。

◆軍事力

1位	アメリカ
2位	ロシア
3位	中国
4位	インド
5位	フランス

少々ヤバイ話題かもしれませんが、アメリカの軍事力評価機関グローバル・ファイヤーパワー社が昨年秋に発表した世界の軍事力ランキングです。136か国を対象に、国防予算や兵器・兵員の数など55の要素を数値化して総合点を算出しています。

日本は8位。気になる近隣諸国は、ロシアが2位、中国が3位、韓国が7位とどの国もかなり大きな軍事力を抱えています。北朝鮮は18位、台湾は24位。

ただ、「陸海空軍その他の戦力は、これを保持しない」と宣言しているはずの日本が世界の第8位とは…。

受験シーズンにもかかわらず、受験とはほとんどかかわりのない話をしてきました。

とはいえ、追いつめられるととかくミスを犯すもの。時には大所高所から世の中を眺めてみることも必要なのではないでしょうか。

受験生諸君にもこういう大きな話をしてあげると気が大きくなって、意外なくらい平常心で受験に臨めるかもしれません。